

畜産GAPや地域循環型農業に取り組む養豚経営

(神奈川県：株式会社 フリーデン)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
	○		○		畜産GAP

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

- 所在地：神奈川県平塚市
- 代表者：代表取締役社長 森 延孝
- 設立：昭和35年5月
- 飼養頭数：母豚総数 約11,600頭
- 認証品目：JGAP家畜・畜産物(豚)
- 認証農場：肥育農場全7農場(群馬県3,岩手県2,秋田県1,福島県1)
- 雇用者数：204名(R4.3時点)
- HP等：<https://www.frieden.jp/>



(左) ブランド豚「やまと豚」のウインナー
(右) JGAP農畜産物使用ロゴマーク

<取組について>

○ 概要

- 「安全・安心・おいしさ」を企業理念に、持続可能な農業生産を確立するため、農場HACCPの取組で構築した体制を活かし、JGAP家畜・畜産物認証を取得。併せて持続可能な農業を実現するためにSDGsの取組を開始。

(取組状況) 平成29年8月 大平牧場でJGAP家畜・畜産物(豚)の認証取得(個別認証第1号)
 平成30年1-2月 肥育農場5農場で、JGAP家畜・畜産物(豚)の認証取得
 令和元年5月 本社が団体事務局となり、肥育農場6農場を対象にJGAP家畜・畜産物(豚)の団体認証取得(団体認証第1号)、現在は7農場

- 農林水産省主催の「GAPの価値を共有するフードチェーン連携パートナー会」における説明をはじめ、依頼により大学等で講演を行うなど、JGAPの普及を推進。
- フリーデンのホームページや、直営レストランのホームページ等で農場HACCPやJGAPの取組について情報を発信。
- 売り場でのJGAPの普及に向け、加工品等の製品に「JGAP認証農場の畜産物使用マーク」を貼り付け。
- 2003年から一関市大東町と地域循環型農業「飼料米プロジェクト」に取り組み、休耕田や転作田で飼料用米を栽培。その米を飼料として肥育された豚は「やまと豚」とブランド化されており、その豚肉は「やまと豚米らぶ」として出荷。
- 牧場の敷地内に浄化処理施設を完備。また、豚ふんはコンポスト化し有機質の発酵豚ふん堆肥として活用(「大地くん」として出荷)。

○ 経営改善の成果

- 従業員の責任感・自主性の向上が見られ、人材育成にも効果が見られた。
- JGAPの取組により労働安全面が強化されたことや、労働安全に対する従業員の意識が高まった。
- 家畜衛生面が強化されたことで、医薬品代のコストが削減。
- 定期的に勉強会を開催し、各農場の意識を統一。
- 団体認証の取得により、各農場の負担を軽減。

